

年 間 取 扱 概 要

1 総取扱高

平成 27 年 1 月から 12 月における青果物の総取扱高は、数量 301,466 t、金額 65,714,469 千円であった。前年と比較すると、数量は 1,482 t 減少（前年比 0.5%減）したが、金額は 4,320,146 千円増加（前年比 7.0%増）した。

平均単価は 218 円となり、前年と比べて 15 円増加（前年比 7.4%増）した。

2 部類別取扱高

(1) 野 菜

1 月～6 月は道内産、道外産ともに、生育期の日照不足、低温の影響により、作況が悪かったが、その後、本州の天候が回復し、全般に数量は前年並みとなり、単価高で支えられ金額は増加した。

7 月～12 月は前半の本州の長雨や猛暑の影響で、野菜全般に作況が悪く数量が減少したことにより、単価高となった。後半は秋雨前線の停滞等の影響で日照不足となり、特に道外産「きゃべつ」、「レタス」の生育不良が目立ち、道内産「きゃべつ」、「レタス」の引き合いが強くなり大幅な単価高となった。その後、道内産、道外産ともに野菜の生育も復調し、特に道内産「たまねぎ」は近年にない豊作となり、道外産「きゃべつ」も豊作となり、例年より早い道内への入荷となったことで数量は前年並みとなった。

その結果、1 年を通してみると、数量は 244,233 t（前年比 0.7%増）で前年並み、金額は単価高に支えられ、45,808,358 千円（前年比 7.7%増）でやや増加となった。

なお、平均単価は 188 円（前年比 7.4%増）でやや増加となった。

(2) 果 実

道内産「メロン」、「スイカ」は、定植期、生育期の日照不足、低温の影響により着果不良、生育不良となり、数量は減少したが、その後の好天により干ばつの影響があったものの、本州からの引き合いが強く、全体で数量、金額ともに前年並みとなった。

道外産「なし」は、台風の影響を受け、着果後に落果や傷等により数量減の単価高で推移し、「みかん」も表年であるが天候不良の影響により数量減の単価高で推移した。

果実全体としては、数量は 57,233 t（前年比 5.3%減）でやや減少となったものの、金額は単価高に支えられ、19,906,111 千円（前年比 5.6%増）でやや増加となった。

なお、平均単価は 348 円（前年比 11.5%増）でやや増加となった。